

解析学 演習問題 3 解答

問 1

まず,

$$\|f\|_\infty \geq \sup_{\substack{g \in L^1(X, \mu) \\ \|g\|_1 \leq 1}} \int_X |fg| d\mu$$

を示す. $g \in L^1(X, \mu)$ で, $\|g\|_1 \leq 1$ となるものが任意に与えられたとする. ヘルダーの不等式から,

$$\int_X |fg| d\mu \leq \|f\|_\infty \|g\|_1 \leq \|f\|_\infty$$

となるので, 示された. 次に,

$$\|f\|_\infty \leq \sup_{\substack{g \in L^1(X, \mu) \\ \|g\|_1 \leq 1}} \int_X |fg| d\mu$$

を示す. 最初に示した不等式から, $\|f\|_\infty = 0$ の時は,

$$0 = \|f\|_\infty \geq \sup_{\substack{g \in L^1(X, \mu) \\ \|g\|_1 \leq 1}} \int_X |fg| d\mu$$

より,

$$\sup_{\substack{g \in L^1(X, \mu) \\ \|g\|_1 \leq 1}} \int_X |fg| d\mu = 0$$

だから, $0 \leq 0$ となって成立する. $\|f\|_\infty \neq 0$ とする. まず, X が σ 有限であることから, 可測集合の上昇列 $\{X_n\}_{n=1}^\infty$ であって, $\forall n \in \mathbb{N}, \mu(X_n) < \infty$ かつ $\cup_{n=1}^\infty X_n = X$ となるものが存在する. $0 < a < \|f\|_\infty$ が任意に与えられたとする. 任意の $n \in \mathbb{N}$ に対し,

$$A_{n,a} := X_n \cap \{|f| > a\}$$

として定めると, $\{X_n\}_{n=1}^\infty$ の取り方から, $\{A_{n,a}\}_{n=1}^\infty$ は増大列であり, 任意の $n \in \mathbb{N}$ に対して $\mu(A_{n,a}) < \infty$ であり,

$$\cup_{n=1}^\infty A_{n,a} = \{|f| > a\} \cap (\cup_{n=1}^\infty X_n) = \{|f| > a\}$$

となる. すると, $a < \|f\|_\infty$ だから $\mu(\{|f| > a\}) > 0$ であり,

$$\forall n \in \mathbb{N}, \quad \frac{\mu(A_{n,a})}{\mu(\{|f| > a\})} \leq 1$$

が成り立つ。そこで

$$g_n(x) = \frac{\chi_{A_{n,a}}}{\mu(\{|f| > a\})}$$

として $\{g_n\}_{n=1}^\infty$ を定めると,

$$\forall n \in \mathbb{N}, \quad \int_X |g_n(x)| d\mu = \frac{\mu(A_{n,a})}{\mu(\{|f| > a\})} \leq 1$$

より, $g_n \in L^1(X, \mu)$ であり, $\|g_n\|_1 \leq 1$ である。このとき,

$$\begin{aligned} \forall n \in \mathbb{N}, \quad \int_X |fg_n| d\mu &\geq \int_{A_{n,a}} |fg_n| d\mu \quad (A_{n,a} \subset X) \\ &\geq a \int_{A_{n,a}} |g_n| d\mu \quad (A_{n,a} = X_n \cap \{|f| > a\}) \\ &\geq a \frac{\mu(A_{n,a})}{\mu(\{|f| > a\})} \end{aligned}$$

となるから, $\mu(A_{n,a}) \rightarrow \mu(\{|f| > a\}) (n \rightarrow \infty)$ より,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \int_X |fg_n| d\mu \geq a$$

である。 $0 < a < \|f\|_\infty$ は任意に与えられていたから,

$$\|f\|_\infty \leq \sup_{\substack{g \in L^1(X, \mu) \\ \|g\|_1 \leq 1}} \int_X |fg| d\mu$$

を得る ($\|f\|_\infty = \infty$ のときは $\infty = \infty$ の意味で成立する)。以上により示された。

問 2

ここでは f を実数値関数として証明する (そのような指示があった)。 $t \in I$ が任意に与えられたとする。 0 に収束する $\mathbb{R} \setminus \{0\}$ の数列 $\{h_n\}_{n=1}^\infty$ が, 任意に与えられたとする。 仮定 (3) より, 開区間 J と $g_J \in L^1(X, \mu)$ で, $t \in J \subset I$ かつ $J \times X$ 上で

$$\left| \frac{\partial f}{\partial t}(t, x) \right| \leq |g_J(x)|$$

が成立するものが存在する。 $\{h_n\}_{n=1}^\infty$ は 0 に収束するので,

$$\exists N \in \mathbb{N}, \quad n \geq N \Rightarrow t + h_n \in J$$

となる。 仮定 (2) から, 平均値の定理を用いて,

$$\forall n \geq N, \quad \exists \theta \in [0, 1], \quad \left| \frac{f(t + h_n, x) - f(t, x)}{h_n} \right| = \left| \frac{\partial f}{\partial t}(t + \theta h_n, x) \right|$$

である。ここで, $\forall n \geq N, t + h_n \in J$ より,

$$\left| \frac{\partial f}{\partial t}(t + \theta h_n, x) \right| \leq |g_J(x)|$$

となる。いま, $n \in \mathbb{N}$ に対して,

$$g_n^t(x) := \frac{f(t+h_n, x) - f(t, x)}{h_n}$$

とすると, 仮定 (1) から $\{g_n^t\}_{n=1}^\infty$ は可積分関数列であり, 仮定 (2) より

$$\lim_{n \rightarrow \infty} g_n^t(x) = \frac{\partial f}{\partial t}(t, x)$$

である。このとき,

$$\begin{aligned} \forall n \geq N, \quad \left| \frac{h(t+h_n) - h(t)}{h_n} \right| &= \left| \int_X g_n^t(x) d\mu \right| \\ &\leq \int_X |g_n^t(x)| d\mu \\ &\leq \int_X |g_J(x)| d\mu \end{aligned}$$

であり, $g_J \in L^1(X, \mu)$ だから, $\{g_n^t\}_{n=1}^\infty$ に優収束定理を用いて,

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{h(t+h_n) - h(t)}{h_n} &= \lim_{n \rightarrow \infty} \int_X g_n^t(x) d\mu \\ &= \int_X \lim_{n \rightarrow \infty} g_n^t(x) d\mu \\ &= \int_X \frac{\partial f}{\partial t}(t, x) d\mu \end{aligned}$$

を得る。したがって, h は $t \in I$ において微分可能である。 t は任意に与えられていたから, h は I 上微分可能であり,

$$\forall t \in I, \quad h'(t) = \int_X \frac{\partial f}{\partial t}(t, x) d\mu$$

となる。

問 3

(1)

これは計算するだけだから, 省略。

(2)

$\frac{1}{p} + \frac{1}{q} = 1$ となる q を取る。まず,

$$\frac{\partial^2 u}{\partial x^2}(t, x) = \int_{\mathbb{R}} \frac{\partial^2 \phi}{\partial x^2}(t, x-y) f(y) dy$$

を示す。各 t に対して $\phi(t, x)$ は x の関数として C^∞ であり, さらに

$$\frac{\partial^n \phi}{\partial x^n}(t, x) = \frac{1}{\sqrt{2\pi t}} \frac{\partial^n}{\partial x^n} \left(e^{-\frac{x^2}{2t}} \right)$$

の右辺は x についての多項式と $e^{-\frac{x^2}{2t}}$ の積のいくつかの和になるから、任意の $n \in \mathbb{N}$ に対して $\frac{\partial^n \phi}{\partial x^n}$ は x の関数として $L^q(\mathbb{R})$ に属する。従って、命題 1.2.6 から、

$$\frac{\partial^2 u}{\partial x^2}(t, x) = \int_{\mathbb{R}} \frac{\partial^2 \phi}{\partial x^2}(t, x - y) f(y) dy$$

が成立する。次に、

$$\frac{\partial u}{\partial t}(t, x) = \int_{\mathbb{R}} \frac{\partial \phi}{\partial t}(t, x - y) f(y) dy$$

を示す。 $x_0 \in \mathbb{R}$ が任意に与えられたとする。任意の $t \in (0, \infty)$ に対し、 $t \in (a, b) \subset (0, \infty)$ となる開区間 (a, b) を一つ取る。このとき、

$$\frac{\partial \phi}{\partial t}(t, x_0 - y) = \left(\frac{\pi}{(2\pi t)^{\frac{3}{2}}} + \frac{(x_0 - y)^2}{2t^2} \frac{1}{\sqrt{2\pi t}} \right) e^{-\frac{(x_0 - y)^2}{2t}}$$

だから、 (a, b) 上で

$$\left(\frac{\pi}{(2\pi t)^{\frac{3}{2}}} + \frac{(x_0 - y)^2}{2t^2} \frac{1}{\sqrt{2\pi t}} \right) e^{-\frac{(x_0 - y)^2}{2t}} f(y) \leq \left(\frac{\pi}{(2\pi a)^{\frac{3}{2}}} + \frac{(x_0 - y)^2}{2a^2} \frac{1}{\sqrt{2\pi a}} \right) e^{-\frac{(x_0 - y)^2}{2b}} f(y)$$

が成立する。ここで

$$\left(\frac{\pi}{(2\pi a)^{\frac{3}{2}}} + \frac{(x_0 - y)^2}{2a^2} \frac{1}{\sqrt{2\pi a}} \right) e^{-\frac{(x_0 - y)^2}{2b}}$$

は y の多項式と $e^{-\frac{(x_0 - y)^2}{2b}}$ の積だから、 y について $L^q(\mathbb{R})$ に属する。 $f \in L^p(\mathbb{R})$ だから、ヘルダーの不等式を用いると、上の不等式の右辺は y について $L^1(\mathbb{R})$ に属する。従って、 $\phi(t, x_0 - y) f(y)$ は前問の仮定 (3) を満たす。仮定 (1) を満たすことも同様にして分かる。(2) を満たすことは明らかだから、前問の結果を適用して

$$\frac{\partial u}{\partial t}(t, x) = \int_{\mathbb{R}} \frac{\partial \phi}{\partial t}(t, x - y) f(y) dy$$

を得る。以上の議論と (1) から、 $u(t, x)$ も熱方程式の解である。

(3)

$$\psi(x) := \frac{1}{\sqrt{\pi}} e^{-x^2}$$

とすると、 $\psi \in C^\infty(\mathbb{R})$ であり、さらに

$$\int_{\mathbb{R}} \psi(x) dx = 1$$

である。ここで $\varepsilon = \sqrt{2t}$ とおくと、

$$\psi_\varepsilon(x) := \frac{1}{\varepsilon} \psi\left(\frac{x}{\varepsilon}\right) = \phi(t, x)$$

であり、 $t \rightarrow +0$ のとき $\varepsilon \rightarrow 0$ である。すると定理 1.2.5 から

$$\lim_{t \rightarrow +0} \|u(t, \cdot) - f\|_p = \lim_{\varepsilon \rightarrow 0} \|\psi_\varepsilon * f - f\|_p = 0$$

となる。